

と云ふとあるを思ふに當國の卜部の祖神を祭れる社ならんかさらば天兒屋命雷大臣命を祭れるかされど此神たちを天諸羽命と申せる證もなければ今は姑く延喜式に従へり

神位 清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授對馬島天諸羽神從五位上

祭日 一月四日

社格 村社
所在 惠古村(字堂(佐護村ミあり)(上縣郡佐護村))

天神多久頭麻命神社

祭神 多久都玉命

今按本社祭神多久頭麻命は姓氏錄瓜工連神魂命子多久都玉命三世孫天仁木命之後也とみえたる多久都玉命同神にて神魂命の御子神なる事著し故今定めて記しつ

神位 清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授對馬島天多久都麻神從五位上

祭日 十一月一日

社格 郷社
所在 湊村(天道(佐護村とあり)(上縣郡佐護村))

宇努刀神社

祭神 須佐之男命

今按本社由緒書に神功皇后新羅征伐より凱還の時上縣郡豊村に著せ玉ひて島大國魂神社を拜し同郡佐賀村に著御す此地にも大國玉神社の神靈を分ちて皇后親ら祭り玉ふ是宇努刀神社なりと云り附て後考に備ふ

神位 清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授對馬島宇努神從五位上

祭日 六月十五日

社格 村社(明細帳に下縣郡中村町(村社)
所在 今屋敷村(字清水山(和多郡美(下縣郡中村町郷社八幡宮境内))

小枚宿禰命神社

祭神

今按長崎縣式内社記に祭神建比良爲命とあるは古事記に天菩比命之子建比良島命云々津島縣直云々之祖也とみえたるによりて云る説と聞ゆれ小枚宿禰命と云神名ある上は建比良島命にあらざる事明けし故今式文によりて記せり

神位 清和天皇貞觀十二年三月丁巳授對馬島小枚宿禰神從五位上

祭日 六月朔日

社格 村社

所在 三根村(字天良(上縣郡峯村大字三根))

那須加美乃金子神社

祭神

今按長崎縣式内社記に祭神須佐之男命大屋彦命とありて由緒書に秦盞鳴命五十猛命を率ゐ八十木種を持ち韓國會戸茂利の地に往き其地には植させ玉はずて此山に植玉ふとある時は此祭神よしなきにあらねど那須加美乃金子神と云神は此二神にはあるべからず姑附て考に備ふ

神位 清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授對馬島奈蘇上金子神從五位上

祭日 六月十五日

社格 村社
所在 小鹿村(字那須(上縣郡小鹿村))

伊奈久比神社

祭神 大歲神

今按本社由緒書に上古海神社を伊豆山に祭祀の時白鶴稻穂を含み空より来て榎田に落す里人其穂を取て榎田に植て御食さし榎田を以て神田とす故に伊奈と云り榎田は志多留村にあり鶴の稻を落せし所は伊奈の原なり其處を

總流川と云ふ古跡今に存す古は大伊奈村と云大歲神を齋ひ奉る云々とあるは倭姫命世記にみえたる保於止志神の古事に似たるより大歲神と云るならんとも思はるれさ土人の傳説も弃かたければ姑く社説に従ふ

祭日 六月初日

社格 村社
所在 伊奈村(字那(上縣郡伊奈村))

行相神社

祭神

今按明細帳長崎縣式内社記に祭神邇々藝命とあれさいかなる由ありて祭られ給へりと云事詳かならねば信がたし姑附て考を俟つ

神位 清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授對馬島行相神從五位上

祭日 九月九日

社格 村社
所在 田村(字山(下縣郡田村))

和多都美御子神社

祭神

今按長崎縣式内式記に祭神豐玉毘賣命鸕草葺不合命とあれさもとは鸕草葺不合命一座にてます和多都美の名に